



2028. DAIRITSU at KAMAKURA
撮影者不詳(鎌倉の大仏) 1870-80年代 銅版紙に手彩色

平成21年度 東京都写真美術館収蔵展

第1部 [Part 1] To the East
Travel and Photography in the 19th Century

旅 東方へ

19世紀写真術の旅

5月16日[土]—7月12日[日]
東京都写真美術館[3階展示室]

【主催】東京都 東京都写真美術館 【協賛】凸版印刷株式会社 【協力】フォト・ギャラリー・インターナショナル／旅行読売出版社
【開館時間】10:00-18:00(木・金曜日は20:00まで／入館は閉館の30分前) 【休館日】毎週月曜日
【観覧料】一般500円(400円)／学生400円(320円)／中高生・65歳以上250円(200円) ()内は20名以上の団体 | 東京都写真美術館友の会会員、小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 | 第3水曜日は65歳以上無料

旅 東方へ

平成21年度 東京都写真美術館収蔵展
第1部
19世紀写真術の旅

[Part 1] To the East Travel and Photography in the 19th Century



撮影者不詳
《桜花と人力車》1870—80年代 銅版紙に手彩色



ジョン・トムソン
《芝罘商通り、広東》写真集『中国とその人々の図像』(1873年刊)より



ノエル・マリー・ペイナル・ルルフル
《アテネのバルテノン神殿》1841年 銅版画



ロバート・ウィリアム・ベーカー
《コモ湖、バレンナをのぞむ眺め》1855—60年 カロタイプ



アントニオ・ベアト
《二つの巨像と入口、ルタソール》1870年代 銅版紙



山下静金兵衛
《富士山》1870—80年代 銅版紙に手彩色

写真術の発明は旅の中で生まれ、その伝播は写真家という旅人によってなされたといっても過言ではないでしょう。そして今日に至るまで、旅を通して実に多様な表現をもつ写真が撮影され、写真の歴史に織り込まれています。

平成21年度収蔵展「旅」では、写真術が発明された19世紀から現代に至るまで、さまざまな旅の中から生み出された作品を、異なる位相をもつ3つのアプローチで構成します。

第1部「東方へ」では、ダゲレオタイプ(銀板写真)が発明された直後にそれをもとに制作された版画から、カロタイプ(紙ネガ/ポジ法)を使ったオリエントの調査旅行の写真、そして極東の日本へと旅した西洋人たちへのおみやげとして大量に制作された「横浜写真」などを展示します。西洋で発明され、19世紀という時代の中で東方へと伝播していった写真術の旅の軌跡をたどることによって、写真家にとって、写真にとって「旅」とは何なのかをさぐってゆきます。

■担当学芸員によるフロアレクチャー

第2、第4金曜日 16:00～
※本展覧会半券(当日印)をお持ちの上、会場入口にお集まりください。

■関連イベント

講演会 2009年5月24日(日) 14:00～16:00
講師: 港 千尋(写真家・多摩美術大学教授)
※本展覧会半券をお持ちの方は、どなたでもご参加いただけます。
※当日10時より1階受付で整理券を配布します。番号順入場(自由席)

東京都写真美術館 3階 展示室
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
TEL.03-3280-0099 www.syabi.com

【アクセス】
■JR 恵比寿駅東口改札より徒歩7分。
東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。
■お車で会場の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。



旅行読売出版社刊

公式ガイドブック

旅する写真

東京都写真美術館編

「旅」の第1部から第3部のそれぞれ代表的な作品を収録。写真術の変遷が見てとれ、国内から海外へと展開する旅写真を1冊にまとめた保存版。

A5判 168ページ 定価 1,680円 5月16日刊

当館 ミュージアムショップ、
全国書店にて販売

第2部「異郷へ」

写真家たちのセンチメンタル・ジャーニー
7月18日[土]—9月23日[水・祝]

第3部「異邦へ」

日本の写真家たちが見つけた異国世界
9月29日[火]—11月23日[月・祝]